

# 授 業 改 善 の ヒ ン ト 中 学 2 年 国 語

## 1 県全体の状況

(1) 正答率 60%以上の問題の割合 59.4% (平成 17 年度 71.9%)

| 問題数  | 正答率 60%以上 |       | 正答率 40%以上 60%未満 |       | 正答率 40%未満 |      |
|------|-----------|-------|-----------------|-------|-----------|------|
| 32問中 | 19問       | 59.4% | 12問             | 37.5% | 1問        | 3.1% |

(2) 観点別正答率

| No | 観点別正答率  | 正答率   | No | 観点別正答率          | 正答率   |
|----|---------|-------|----|-----------------|-------|
| 1  | 話す・聞く能力 | 86.1% | 3  | 読む能力            | 63.2% |
| 2  | 書く能力    | 63.4% | 4  | 言語についての知識・理解・技能 | 65.3% |

(3) 問題内容別正答率

| No | 問題内容別正答率 | 正答率   | No | 問題内容別正答率    | 正答率   |
|----|----------|-------|----|-------------|-------|
| 1  | 聞き取り     | 86.1% | 5  | 文法          | 58.0% |
| 2  | 漢字の読み    | 84.4% | 6  | 文学的な文章(小説)  | 64.3% |
| 3  | 漢字の書き    | 48.6% | 7  | 説明的な文章(論説文) | 62.1% |
| 4  | 語句       | 70.2% | 8  | 作文          | 63.4% |

## 2 定着が良好な領域や単元等

(1) 「話すこと・聞くこと」

- ① 「話の内容を正確に聞き取る」問題の正答率は93.3%である。 1(1)
- ② 「話し手の工夫を聞き取る」問題の正答率は86.4%である。 1(2)

(2) 「書くこと」

- ① 「資料から課題を見つける」問題の正答率は71.4%である。 6(1)

(3) 「読むこと」

- ① 「作品の展開を考えながら主題を考える」問題の正答率は80.5%である。 4(5)

(4) 「言語事項」

- ① 「漢字の読み」の問題の正答率は「なが(め)」95.0%、「そうさ」93.7%である。 2(1)
- ② 「文法」の問題の正答率では「敬語の使い方」が95.8%である。 3(8)

## 3 指導法の工夫改善が必要な領域や単元等

(1) 「書くこと」

- ① 「根拠を挙げて、自分の考えを書く」問題の正答率は、55.6%である。 6(2)②

(2) 「読むこと」

- ① 「文脈の中での語句の効果的な使い方を理解する」問題の正答率は47.9%である。 4(4)
- ② 「文章の展開に即して内容を要約する」記述式問題の無答率は17.8%である。 5(2)
- ③ 「語句の効果的な使い方を理解する」記述式問題の無答率は17.1%である。 4(4)

(3) 「言語事項」

- ① 「漢字を書く」問題で「す(ます)」の正答率は40.9%、「ふくぎつ」の正答率は49.7%、  
で「こきょう」の正答率は51.3%(H17:61.7%, H16:60.4%)、「きび(しい)」の正答率  
は52.7%である。 2(2)
- ② 「漢字の筆順」問題の正答率は49.5%である。 3(3)
- ③ 「単語の性質をとらえる」問題の正答率は49.4%である。 3(6)
- ④ 「文の成分(修飾・被修飾の関係をとらえる)」の問題の正答率は26.0%である。 3(7)

## 1 読むこと

表現の仕方や効果的な語句の使い方に目を向けさせましょう。

### 1 問題の概要

|       |  |           |
|-------|--|-----------|
| 4     | (4)「しばらく、そこに寝とれ」と言った時の、健兄いの心情を的確に表現した言葉を抜き出す問題 | 正答率 47.9% |
| 誤答例 4 | 「よく泣かなあじやったな、えらいぞ」 3.5%                        |           |
| 5     | 「しばらく、そこに寝とれ」 0.4%                             |           |
| 9     | それ以外 31.1%                                     |           |
| 0     | 無解答 17.1%                                      |           |

### 2 正答率が低い要因

- (1) 誤答傾向をみると、「よく泣かなあじやったな、えらいぞ」を選択した生徒は、後に続く言葉「～という様子」とのつながりをよく読まず、様子を会話と取り違えたと考えられます。誤答例以外の解答(31.1%)や無解答(17.1%)が多いのは、心情を表す言葉をとらえられなかったためと考えられます。
- (2) 語句の意味を理解するだけでなく、一つの言葉がどんな効果を上げているのか、作者の意図と結び付けて考えさせる学習が不足していると考えられます。

### 3 指導法改善のヒント

- (1) 「読むこと」の指導では、文種にかかわらず、叙述の中に根拠を求めながら、読みを深めていく過程を大切にしましょう。  
○発問例：どうしてそう思うのですか。どの言葉からそう思ったのですか。
- (2) 文学的文章の指導では、心情や情景の読み取りに終始するのではなく、描かれ方に目を向けさせ、特徴をもった語句を挙げさせるとともに、そのことによってどんな効果があるのかを考えさせましょう。  
○発問例：登場人物の姿はどのように描かれていますか。それらの語句をまとめてみると、そんな人物だということが読み取れますか。
- (3) 文学的文章で扱った情景描写や人物描写などの優れた表現を抽出し、「書くこと」の指導と関連付け、自分の文章表現の中に活用していく授業を展開し、言語活用能力を身に付けさせましょう。  
○指示例：「満身の力を～獅子奮迅の～憐憫を垂れてくれた。」という文などを視写し、音読しましょう。
- (4) 説明的文章では教材の内容把握に終始するのではなく、教材を客観的にとらえさせ、批評的に読ませる機会を持ちましょう。  
○指示例：筆者に質問してみましよう。筆者は何に感動してこの文章を書いたのでしょうか。
- (5) 図書館など活用して、読書活動を推進しましょう。  
○指示例：教科書に出てきた「○○」を読んでよかったなあと思った人は、図書館に同じ作家の「○○」という本がありますから、読んでみましよう。

## 2 書くこと

自分の考えをもたせ、段落のまとまりを意識させながら書かせましょう。

### 1 問題の概要

|   |  |           |
|---|--|-----------|
| 6 | (2)② 根拠を挙げて、自分の考えを書く。第1段落に2つのグラフから分かること、第2段落に考えたことや感じたことを書く。 | 正答率 55.6% |
|---|--|-----------|

|   |              |
|---|--------------|
| 誤答例 「2つのグラフから分かることが書かれていない」 5.1%        | 正答率<br>55.6% |
| 「第二段落で、第一段落と関係のない考えや感じたことを書いた」 1.4%     |              |
| 「自分の感じたことや考えたことが書かれていない」 6.1% 無解答 15.1% |              |

## 2 正答率が低い要因

- (1) 「2つのグラフから分かることが書かれていない」誤答については、グラフ資料の内容を読み解くことができなかつたり、設問文の指示を的確にとらえられなかつたことが要因と考えられます。また、「自分の感じたことや考えたことが書かれていない」誤答は、事実とそれに対する感想や意見の区別ができなかつたことが要因と考えられます。また、この設問の無答率が15.1%であり、時間不足で書けなかつたり、論述そのものに対する抵抗感が強かつたりしたことが要因と考えられます。
- (2) 図や表などの資料から課題を見つけ考えをもつことについては、現在の国語科の学習ではほとんど取り組まれていないと考えられます。
- (3) 事実と意見の書き分けのような、条件を明確にした書き方の学習が繰り返されていないと考えられます。

## 3 指導法改善のヒント

- (1) 文章の書き方に関するパターンに従って書かせましょう。
  - テーマを与えて、冒頭にまず仮説（結論、主張）を述べ、次にそれを支える根拠を挙げて証明する頭括型の文章を数多く書かせましょう。
- (2) 日常生活において、書く機会を多くもたせましょう。
  - 「生活記録ノート」をつけさせましょう。その際、文の数や字数、内容に条件を与えましょう。その後、徐々に文の数や字数を増やすなど、段階的に指導しましょう。
  - 朝や帰りの会等で「○分間スピーチ」等を取り入れ、条件を与えて原稿を書かせましょう。
- (3) 「読むこと」の指導との関連を積極的に図りましょう。
  - ノート指導を丹念に行い、メモをとることを習慣づけましょう。
  - 「読むこと」教材の初発の感想や学習のまとめを「印象に残った場面」と「それに対する感想」といった条件を付けて2段落で書かせましょう。

|               |   |
|---------------|---|
| <b>3 言語事項</b> | <b>漢字は3領域や日常生活と関連付け、繰り返し学習し身に付けましょう</b> |
|---------------|---|

## 1 問題の概要

|   |           |
|---|-----------|
| ② (2) ①～④ 小学校で学習した漢字を書く<br>(「複雑」49.7%「故郷」51.3%「済ます」40.9%「厳しい」52.7%) | 正答率 48.4% |
|---|-----------|

## 2 正答率が低い要因

- (1) 小学校で学習した漢字を、文や文章の中で使えるようにする指導が不足していると思われる。
- (2) 中学校で学習する漢字（指導事項のイ「漢字の書き」にある各学年に示されてある漢字）を身に付けさせる継続的な指導が不足していると思われる。
- (3) 「書くこと」及び「読むこと」の学習の際に漢字のもつ意味や用法等に留意しながら指導する学習が不足していると思われる。
- (4) 「済ます」及び「厳しい」の無解答率が、それぞれ50.5%、29.1%であったことから、読めるが書けない漢字が増えてきているものと思われる。

## 3 指導法改善のヒント

- (1) 3領域の学習で、意図的に小学校「学年別漢字配当表」の漢字を取り上げましょう。

- ① 「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の学習において
    - 機会あるごとに「学年別漢字配当表」の漢字を意識させ、身に付けるように配慮しましょう。
    - 国語辞典を身近に置き、文や文章の中で基本的な漢字の意味調べ等に活用させましょう。
  - ② 「読むこと」の学習において
    - 視写を取り込み中心となる文や段落を書かせたり、重要な漢字の意味をとらえさせたりしましょう。
    - 小テストや定期考査の出題の仕方に配慮し、身に付きにくい漢字は繰り返し指導しましょう。
    - 国語辞典使用の習慣化やフラッシュカード及び小黒板等の活用を図りましょう。
  - ③ 家庭学習において
    - 計画的に漢字プリント等を配布し継続的に取り組ませましょう。問題作成に関しては、平成16年度「特定の課題に関する調査（国政研）」の漢字に関する出題を参考にしましょう。
- (2) 学校の集団生活の中で機会をとらえて指導していきましょう。
- ① 学級生活の場において
    - 学級日誌，壁新聞，掲示物等の記述にあたっては，既習の漢字をなるべく使用させましょう。
  - ② 学級の係活動において
    - 他教科の学習で出てきた漢字と国語科で習った漢字の関係に留意して，黒板や漢字コーナーに取り上げて掲示しましょう。
- (3) 語彙数を増やしたり言語感覚を磨くため，読書活動の充実を図りましょう。  
全校読書の時間を設け，全校体制で読書に取り組む雰囲気醸成しましょう。

## 4 言語事項

言語事項は理解や表現に生かす中で身に付けさせましょう

### 1 問題の概要

|   |                           |           |
|---|---------------------------|-----------|
| 3 | (3) 漢字の筆順について理解している 49.5% | 正答率 41.6% |
|   | (6) 単語の性質について理解している 49.4% |           |
|   | (7) 文の成分について理解している 26.0%  |           |

### 2 正答率が低い要因

- (1) 「書写」の字形指導との関連を図った漢字の部首や筆順の原則を理解させる指導が不十分だと考えられます。
- (2) 「文章」「段落」「文」「文節」「単語」という言葉の単位の定義の理解を図る指導が不十分だと考えられます。
- (3) 修飾・被修飾の関係を，文節のはたらきという点から理解していないと考えられます。

### 3 指導法改善のヒント

- (1) 書写の時数を確保するとともに，日常的な学習においても，誤りやすい漢字の筆順については取り上げ指導を行いましょう。
  - ① 部首を含む筆順の原則を正確に理解させ，字形を整えて書くことにつなげましょう。  
例1：貫く縦画は最後に書く，貫く横画は最後に書く等の筆順の原則  
例2：構え（かまえ），垂れ（たれ），繞（によう）など，部首を構成する部分と他の部分の筆順の関係
  - ② 板書や机間指導の場面で，丁寧に繰り返し指導しましょう。
- (2) 言葉の単位表等を作成して教室内に掲示するなど，言葉の単位を身近に感じさせる手だてを講じるとともに，小テスト等の実施により定着に努めましょう。
- (3) 文法の時間の取り立て指導の工夫を図るとともに，文章の理解や表現の場に即して具体的に指導することに努めましょう。